

【タイトル】

提出者 菊澤こゆり



猫とコーヒーと失語症

言葉を失い夫婦の対話が増えた。失語症の旦那さんとの正しいよりやさしいコミュニケーション。

【概要】

本企画は、失語症になった夫と妻の夫婦の絆をテーマに、コミュニケーションの大切さを伝える内容です。

失語症は全国に約50万人いるとされていますが、その障害特性から社会的認知も低く、保健、医療、福祉などのあらゆる分野で対策が遅れてきた疾患です。**日本人の4.3人に一人が生涯脳卒中を経験**するとされ、誰にでもおこる可能性のある失語症への理解と関心を、イラスト(漫画)と文章でわかりやすく伝えます。私が失語症の夫との対話をイライラせずに楽しめたのは、**聴覚障害**のある友人とのコミュニケーションの経験があったからです。言葉が出ない、**手話**が分からないのが問題ではなく、お互い通じ合いたいという気持ちがあれば、言語を超えて繋がれます。この本に出会うことで、失語症だけでなく、様々な障害を抱える人たちのことを知り、寄り添う気持ちを持つ人が増え、やさしい社会になることを願っています。

- ▶類書 『こう見えて失語症です』 著者:米谷瑞恵 マンガ:あらいひろよ 発行:主婦の友社 発売日:2022年10月4日
- ▶類書との差別化 介護、闘病記録でなく、失語症になった夫とのやさしくおもしろい対話術を紹介。
退院後、夫との生活の中での気づきをSNS投稿し続けていることで、似顔絵そっくりの夫の周知と固定ファンがいる。
NPO法人Reジョブ大阪の月刊誌『脳に何かがあったとき』にも、漫画「ダーリンはかわいい失語症」を2年間連載。

【想定する読者ターゲット】

- ① 20～60代の男女
- ② 障害当事者とその家族、友人
- ③ 介護、福祉に携わる仕事を目指している学生
- ④ 医療従事者 (医師、看護師の他、言語聴覚士 作業療法士 理学療法士など)
- ⑤ 健康や老後について、将来の漠然とした不安や希望を求めている人
- ⑥ SNSを見て応援してくださっている人たち

【著者プロフィール】

菊澤こゆり (きくざわ・こゆり)

1970年 兵庫県三木市出身 菊澤デザイン事務所代表/感動を絵と文でお届けするイラストライター
20年以上夫婦でデザイン事務所を営む中、2022年3月、突然夫が脳内出血で倒れる。退院後、障害者になった夫のことをSNSで毎日更新。2023年4月～高次脳機能障害専門の月刊誌に漫画「ダーリンはかわいい失語症」の連載開始。
クリエイターとして美術展にも毎年参加。車椅子のホイールカバーデザインや脳卒中の後遺症をテーマにした夫との共同作品を京都市京セラ美術館で発表。また、手話を広める絵本を独自に制作。三木ロータリークラブのご支援のもと、2019年から毎年三木市の小学校に寄贈。NPO法人手話の実・副理事も務め、聴覚障害への理解と関心を広める。ふるさと三木応援大使として三木市の観光・福祉・土産企画に参画。かわいいイラストで知るきっかけをやさしく広める。



脳内出血で倒れた夫との日々の記録
「今日のメモ」
note 毎日更新

【構成案】

はじめに ～私、きよんきよん～

第1章 会えないほど会いたいコロナ禍の入院

伏線回収/病院へスーター/知らんおばちゃんにキス/母親をスパイに/脱出したい/受けるか断るか/
ユニクロわからんゴルチエわかる/失語症の友達～脳卒中フェスティバル

第2章 教えてグーグル先生!

ありがとうが出てこなくて/彼女/はじめまして/コンビニでおやつ爆買い/おすしのひみつ/
ゾンビかアニメか声優か/チチヤスLOVE/ジョジョネタ多し/その間違いは正しい

第3章 伝えられないもどかしさ

また手術!!/一人でお留守番/痛いのか痛くないのか?/足湯は猫の水飲み場/お洒落のすゝめ

第4章 なあ、・・・やってみようじゃないか

食べたいは壁を超える/車椅子で東京へ/折り紙記念日/薬はやめれる/角田信朗さんは忘れても/
なあ、ゲームをやってみよう!/学生さんとの対話会/ビリビリ検査/週末ロードショー

第5章 失語症名言集

人生は爆発/かためましまし/さんびやくろくじゅっせん/ぴすたかちよー/おっばいおちてる/
るとらふあうがー/たーぷるぼぽペ/ねややわし/彼女は大仏/スーツの短いお笑い

第6章 障害は違うけど困り事と解決策は同じ

おわりに ～猫とコーヒーと～



はじめに

私、きよんきよん

旦那さんが失語症になってから夫婦の対話が増えた。

失語症は決して言葉を失っているわけではなく、言いたい言葉を見失ってるだけ。

どんなに忙しくても、旦那さんと大好きなパンとコーヒーを飲む時間だけはゆっくりと過ごすことに決めていた。たわいない対話の中で、出てこない言葉を少ないキーワードの中から連想ゲームのように導き出していくのはとても楽しい。そんな旦那さんとの対話や暮らしの中での気づきを、漫画みたいに毎日メモしてSNSに投稿していたら、失語症・高次脳機能障害専門の会員制月刊誌に連載しませんか？というお話をいただいた。嬉しくて友達にその話をしたら

「うわー、すごい！その漫画ドラマ化になったらどうする？」

「えー！！！！めっちゃええやん！じゃあ、わたしの役だれ？」

「きよんきよんがいいよー！」

「きよんきよん！私、きよんきよん！！じゃー旦那さんは？」

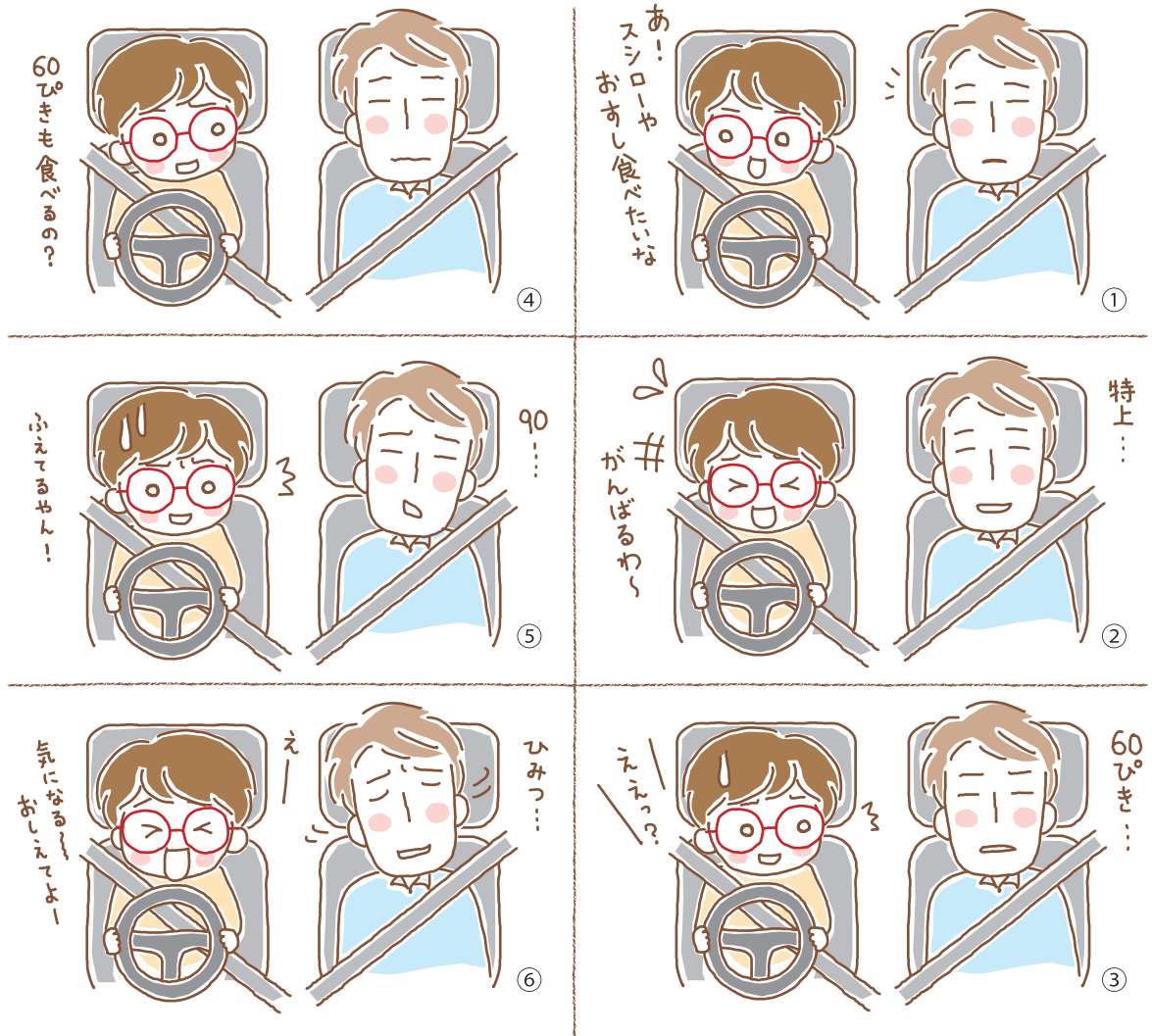
「とよえつがいいよー！」

「えー！！！！とよえつかあ！！！」

と、きよんきよん言いながら大笑いした日から、仕事と介護と猫のお世話と家の用事に追われる中、「ちえつ」とか「く〜く〜く〜く〜！」とか思う時、いやいや、わたし「きよんきよん」だから。「きよんきよん」だったら、こんな時もきよんきよん乗れりゃいいよ！と、今の自分の状況を、きよんきよん演じる介護ドラマの1シーンに置き換える。



illustr © koyuri 空



おすしのひみつ

運転中に外の景色を見ながらおしゃべり。ビルの看板を読んだり、コンビニの名前を言ったり。目にしたものを出して言うのは良いリハビリになると思う。

スシローが見えたから、「寿司食べたいねえ」と言うと「特上……」

「おおお、がんばるわー(笑)」

「60匹……」

「ええ??? 60匹も食べるの???」

「んー、90……?」

「はあ? 増えてるじゃん??? なにが90?」

「こーかあーかという質問しまくってたら、もう答えるのがめんどくさくなって」

「……ひみつ」

「えー、気になる教えてー! ヒントヒント!」

「こんなやりとりで結局その日は60がなんの数字だったか分からず、翌日、よくよく聞いてみたら、スーパーの特上のお寿司を50%(半額)値引きシールで買えば良いと言いたかったようだ。」

50を60と間違えて、さらに90と言い間違えて、もう90%値引きなんかほぼタダやんと大笑い。なにが言いたかったのか分かってスッキリ!

失語症になって、数字と単位の表現が苦手になった。説明がめんどくさくなると「ひみつ」というかわいいうーダーリン。

第6章 障害は違うけど、困り事と解決策は同じ

失語症の旦那さんとの対話は、聴覚障害のある友人とのコミュニケーション方法と似ている。手話が下手な私は、聞こえない、聞こえにくい友人に、いろんな方法で伝えようとし、相手が言いたいことを前後の対話と読み取れた手話から推理する。この経験は、旦那さんが失語症になった時に役立つ。

障害は違うけど、困り事と解決策は同じ。一度にあつちからもこつちからも言われたら聞き取れないし、早口や続けて長い文章、まわりくどい言い方、難しい言葉は伝わらない。その時の状況に合わせて、指差し、筆談を使いながら、一対一で正面から向き合って、ゆっくり、はっきり、端的に、どんな手段を使っても伝えたいという気持ちがある。言葉が出ない、手話が分からないのが問題ではなく、お互い通じ合いたいという気持ちがあれば、言語の壁は超えられる。

これは、吃音や場面緘黙症、自閉症など、障害のある人から、知ってる言葉の数が少ない小さい人や耳が遠くなった高齢の方、外国の方などの「コミュニケーション」の場でも共通して考えられる。失語症の旦那さんとの対話から、誰に対しても、それぞれの立場に寄り添いながら、正しいよりやさしい対話を心がけようと思えるようになった。

全部「これ」

疑問、感嘆、同意、否定、会話ほぼ「これ」でいける。特に動作の言葉が苦手な旦那さんは文章の最後まで、「……これやねん」でしめる。旦那さんが「これ」で全部対話しようとするのが、手話表現の「C」※に、似ていると思った。ひとつの言葉でいろんな表現方法ができる。言葉が出なくても、表情や仕草で、何を言おうとしているか読み取れる。このことを聾者の友人に聞くと、それ（これ）は言語と言ってくれた。全部「これ」でもいいじゃないか。社会に出て、それ（これ）が通じるかは、また別の問題。

※「C」やせ、「Classifier (クラシファイアー) (類辞)」の略で、手話特有の表現方法

「これ」 4段活用



イラストの追加、レイアウト変更は自由にできます。各ページ ノンブル横に猫のパラパラ漫画を入れる。以上となります。よろしくお願いいたします。